

令和5年度 校長通信

第1号

4月10日

ないせい

高石市立清高小学校

編集・発行 末本 裕喜

学校通信「清高だより」を毎月配布していますが、今年度も必要に応じて校長通信「ないせい」を配布いたします。



【一学期スタートに際して】

令和5年4月10日、清高小学校の新しい1年が今日スタートしました。新しい学年、新しい教室、新しい机と椅子、そして新しい先生と「新しい」が続きます。児童皆さんは、春休みの間にきっと、新しい学年になったら「勉強がんばろう」「本をたくさん読もう」「運動がんばろう」など色々考え、それぞれが目標を持って登校してきたと思います。この1年間、自分の目標に向かってがんばってほしいと思います。一人ひとりの目標が今年度の終わりには達成されることを期待しています。そんな中、校長先生からは、まず頑張してほしいことがあります。それは、「あいさつ」です。一人一人がしっかり挨拶のできる子になってほしいと思います。

ところで、みなさんはダイヤモンドってしていますか？ 知っていますよね。ダイヤモンドは、土から掘り出されるのですが、その多くは、最初からきれいに輝いていません。ダイヤモンド原石と言われます。一部光っていたりしますが、このままでは、宝石のダイヤモンドにはなりません。磨かれて光っていくのです。では何で磨くのでしょうか。ダイヤモンドは地球で一番硬い石です。だから、ダイヤモンドを削ったり磨いたりする時は、同じダイヤモンドを使うそうです。同じもので磨き合うわけです。

このことは、人間の私たちにもあてはまります。人間は、この地球で一番頭脳を使っているといわれる生き物です。言葉を使って色々考えますが、生まれた時から賢かったわけではありません。ダイヤモンドは、ダイヤモンドで磨くように、人間は人間によって、人間らしくなっていくのです。家族や先生、友だちと助け合い、学び合い、高め合うことで人間として成長していくのです。

そこで、皆さんと今年一年一緒にがんばる約束を3つ考えました。

1つ目は、硬いダイヤモンドも磨き続けられて輝くように、みなさんもあきらめないで輝く努力をしてほしいと思います。「あきらめない努力」が大事です。

2つ目は、ダイヤモンドは傷つけながら磨き合って美しく光るように、みなさんも友だちを意見が違って、勇気を持って、自分の考えを友だちに伝えましょう。伝えることで、分かりあえたり、自分の考えがはっきりしてきたりすると思います。「自分の考えや思いは言おう」です。

3つ目は、ダイヤモンドは、同じダイヤモンド同士で磨き合って光るように、皆さんもひとりぼっちではなく、友だちと一緒に活動することで、互いに良いところを見つけたり、助け合ったりして成長していくのです。友達を大切にしましょう。それぞれの目標に向かって、この1年間がんばってください。私も先生方もがんばります。そして来年の3月には皆さん一人ひとりがすてきなダイヤモンドになることを楽しみにしています。

「内省」とは？ 2年生以上の児童は、昨年度の話思い出して、復習してみましょう。「内省（ないせい）」この言葉は、辞書で引くと「反省」と同じような意味で取り扱っているものもあり、「自分の考えや言動、行動について深く省みること」と書かれていたりします。校長先生は、この言葉について次のように考えています。

もし、誰かに嫌なこと（いじめ）をしようとしたとき、その行動をする前によく考えてやめることができれば、その行為（いじめ）はなかったこととなります。行動を起こす瞬間やその前に「内省」をしっかり行うことができれば、あの時、こうすればよかったとか、こんなことしなければよかったということは激減するということです。当然、その行為（いじめ）によって、苦しむ子どももいないということになります。

してしまった過去は、消すことはできません。しかし、行動を起こす一歩手前の考えによって起こったはずの出来事が起こらなかった出来事にできるということです。一度、内省についてよく考えて実行してみてくださいはどうか？



失敗は成功のもと

昨年度も掲載しましたが、再度以下の話をさせていただきます。物事を失敗する理由には、次のような場合があると聞きました。このことは案外、言われないと気がつかないなと思います。

- ・自分が「こうあってほしい。または、こうだったらいいのに。」という思いに無意識に引っ張られて、失敗する可能性が高い状態にしてしまう。
- ・過去にたまたまうまくいった成功体験に引っ張られてしてしまう。
- ・自分の所に来る情報が、情報をくれた相手の忖度（「相手の求めていることは何か？」という他人の考えや感情を察したり、予測したりする事を意味します。）のために、正しいものでなく、失敗してしまう。

失敗の中には、絶対にしてはいけない失敗もありますが、失敗によって人として成長することも多くあります。そして、失敗しなければ上に書かれたことは増幅し、大きな失敗をしてしまうかもしれません。もし、上に書かれた理由で失敗したのであれば、失敗の原因を考え、次に生かすことが大切だと思います。